

## 『もし身近に陽性者が出たら・・・』

	2/12(土)	2/13(日)	2/14(月)	2/15(火)	2/16(水)	2/17(木)
岐阜県内感染者数推移	693	904	626	1,234	984	1,140
瑞浪市内感染者数推移	34	22	12	44	46	34
東濃5市内感染者数推移	91	83	87	199	166	166

【直近6日間の県内・市内・東濃地区内の感染状況】（※網掛けは東濃5市内で感染者数が一番多い）

上記の表を見る限りにおいて、日々激しい増減を繰り返していること、東濃地区内に占める瑞浪市の陽性者の割合が極めて高く推移していること、といった不安感に直結するような事実が浮き彫りになります。

岐阜県の感染者が初めて1,000人を超えた時、驚きと不安しかありませんでした。しかし、それが続くと感じが麻痺します。受け止めが軽くなってしまいます。また、身近では陽性者が出ていない、広がりは見られないといった、安心材料を求め、現実を現実として受け止めようとしなない思考が働きます。

しかし、いつ誰が感染してもおかしくない、という状況は続きます。そんな中、『今まで陽性者が出現していないところに出たら・・・』、感染拡大より恐ろしい結果を招くのが、詮索、誹謗中傷、噂話、子どもへの刷り込みです。ビジネスの世界に『3対3』の法則というものがあります。いい話は3人に話す、対して悪い話（特に悪口、人が気にしているようなこと）は、33人に話すというものです。11倍の勢いをもって広がっていくのです。

ここで、瑞浪北中学校のHP『校長室より』の一部分を掲載します。（校長先生からは了承を得ています。）

### そっとしておく思いやり

（前略）高校入試は全員が合格することはまずありません。「合否」という言葉通り、不合格者もいるはず。結果発表があった時には、本人ではなく、それを取り巻く周りの者たちの言動が重要になってきます。「今日の結果発表に関係のない生徒は、すぐに下校しなさい」と3年職員は言うでしょう。「なんで？合格したら一緒に喜んであげたいし、ダメだったら慰めてあげたいから待ってほしい」と考える人はいませんか。待つか待たないかだけでなく、心配するあまりすぐに「どうだった？」と尋ねたりメールしたりすることも同じです。これが「親切という名のおせっかい」です。

人生で初めて受験（検）を経験し、初めて目の当たりにする結果については、合否に関わらず、本人にしっかり受け止めさせなければなりません。特に、不合格だった場合は、慰めの言葉より、少しでも早く本人の気持ちの切り替えをさせるべきです。

それに、慰めになると思っているのは周りの者だけであり、不合格を突き付けられた者にとっては慰めになりません。自分勝手に思いを巡らし、相手の都合は二の次になっています。「悲しんでいるだろうから励ます」一見優しそうに思えるこの考えは、場合によっては、悲しむ仲間の心に土足で無遠慮に入り込む行為になります。（後略）

これは2月1日にアップされた文章です。万が一、身の回りでコロナ陽性者が出現した際にも通ずる部分が多くあると思います借用させていただきました。周りが騒ぎ立てず、安心して療養してもらうこと、「思いやり」の気持ちを持ち続けること。いざとなった時、真価が問われます。是非、一人を大切にしていきたいですね。